

都留文科大学電子紀要の著作権について

都留文科大学電子紀要のすべては著作権法及び国際条約によって保護されています。

著作権者

- 「都留文科大学研究紀要」は都留文科大学が発行した論文集です。
- 論文の著作権は各論文の著者が保有します。
- 紀要本文に関して附属図書館は何ら著作権をもっておりません。

論文の引用について

- 論文を引用するときは、著作権法に基づく引用の目的・形式で行ってください。

著作権、その他詳細のお問い合わせは

都留文科大学附属図書館
住所: 402山梨県都留市田原三丁目8番1号
電話: 0554-43-4341(代)
FAX: 0554-43-9844
E-Mail: library@tsuru.ac.jp

までお願いします。

[電子紀要トップへ](#)

『南翁夢録』について

- 中国側に残されたヴェトナム人の著作 -

On “ Nam Ông Mộng Lục ”
- A Historical Essay by Vietnamese Published in China -

和田 正彦

WADA Masahiko

1. はじめに

明の正統三（1438）年に正義大夫資治尹工部左侍郎の黎澄が著した『南翁夢録』全一巻は、ヴェトナムの陳 Trần 朝の「賢王良佐之行事、君臣善人之虚心、貞妃烈婦之操節、繼流羽客之奇術、與夫綺麗之句、幽怪之説」（1）を三十一篇にまとめたもので、Trần Văn Giáp の Le chapitres bibliographiques de Lê-quí-Đôn et de Phan-huy-Chú（2）の Introductionに引かれているヴェトナム後黎 Lê朝（1428～1789）末期の官僚・大学者の黎貴惇 Le Quí Đôn（1726～1784）の『見聞小録 Kiến Văn Tiểu Lục』（3）巻之四で、宋の陳剛中の『使交州集』、元の徐明善の『天南行記』、明の丘濬の『平定南交録』、明の嚴從簡の『殊域周咨録』とともに「此五集可補越史之闕」と記しているように、『大越史記全書』や『欽定越史通鑑綱目』などのヴェトナムの歴史書の記事を補うものとして極めて興味深い著作である。

『南翁夢録』の書誌学的研究としては、Trần Văn Giáp（陳文瑋）の Tìm Hiểu Kho Sách Hán Nôm - Nguồn Tu · Liệu Văn Học, Sử · Học Việt Nam -（對漢喃書庫的考察）Tập Iでは一節を割いおり（4）、Bu u Cầm も Nam-ông mộng-lục, một tác-phẩm của Hồ Nguyên-Trùng, con Hồ Quý-Ly（5）を発表している。

しかし、『南翁夢録』が中国で著作された漢籍であるためか、ヴェトナムの書籍解題として定評のある Emile Gaspardone の Bibliographie Annamite（6）ではその項目を欠いている。

以下に『南翁夢録』の版本と著者等の履歴について明らかにし、ヴェトナム前近代史研究に資するものとする。

2. 『南翁夢録』の版本について

『南翁夢録』の版本（7）は、以下に列挙するように三系統十二種類ある。

A. 記録彙編本系

1. 記録彙編本

（國朝）記録彙編（全216巻123種76冊10函）第十三冊卷五十（第二帙）

明、沈節甫纂輯 陽羨陳于廷序撰

明、萬曆四十五丁巳年（1617）廣信桂德化刊 景明刻本

（主要所藏機關）東洋文庫（ - 3 - A - e - 5 ）、內閣文庫（楓30 - 子91 - 3 ）、
慶應義塾図書館（153 - 26 / 13 - 1 ）、京都大学人文科学研究所

2 . 景印紀錄彙編本

景印紀錄彙編（全216卷123種100册10函）第十八册卷五十（第二帙）

明、沈節甫輯 上海商務印書館影印

民國二十七年（1938） 景印萬曆刊本

元明善本叢書十種之一

（主要所藏機關）東洋文庫（V - 5 - A - 26）、慶應義塾図書館（153 - 26 - 13 - 1 ）、
京都大学人文科学研究所

3 . 叢書集成初編本

叢書集成初編第3255冊

民國、王雲五主編 上海商務印書館發行

民國二十六年（1937） 景印紀錄彙編本

彭崧毓撰『緬述』、劉欣期撰・曾釗輯『交州記』、黃福撰『奉使安南水程日記』併收
（主要所藏機關）慶應義塾図書館（170 - 1294 - 1 ）、ほか

B . 說郭續本系

4 . 說郭續本

說郭續（全46卷）弓第十四

明、陶珽輯校

明、萬曆間（1573～1619）刊 武林、宛委山堂藏版

（主要所藏機關）東洋文庫（ - 3 - 4 - e - 5 ）、內閣文庫（枳166 - 370 - 29）

5 . 天啓重印說郭續本

說郭續（全44卷）弓第十三

明、陶珽輯校

明、天啓間（1621～1627）後刊 杭州、宛委山堂重印

（主要所藏機關）『北平中法漢學研究所所藏本著録』に見える（筆者未見）

6 . 順治重印說郭續本

說郭續（全46卷）弓第十一

明、陶珽輯校

清、順治四年間（1647）兩浙督學周南李際期用宛委山堂板片剞補重印

（主要所藏機關）東洋文庫（V - 5 - A - 12）、慶應義塾図書館（41 - 25 / 14 - 1 ）、
內閣文庫（昌167 - 370 - 28 , 昌200 - 370 - 32）

7. 五朝小說本

五朝小說(明人百家)(全44册)第三十六册第四帙

明不著撰人輯

明刊 案用說郭續刊版重編本

(主要所藏機關)東洋文庫(V-5-A-35)、京都大学人文科学研究所、内閣文庫
(楓16-371-14)

8. 皇明百家小說本

皇明百家小說(全10册124卷2函)甲集乙册第十二卷

明、石間沈廷松序、崇禎七甲戌年(1634)

明刊 案用說郭續刊版重編本

(主要所藏機關)東洋文庫(V-5-A-19)、京都大学人文科学研究所

9. 明六十家小說本

明六十家小說

明不著撰人輯

明刊 案用說郭續刊版重編本

(主要所藏機關)京都大学人文科学研究所(筆者未見)

10. 坊刊明人百家本

坊刊明人百家第十二帙(筆者未見)

11. 五朝小說大觀本

五朝小說大觀(明人百家)(全40册)第四函第十二帙第三十二册

明不著撰人輯

上海、掃葉山房發行 民國十五年(1926)石印

小說叢書之二

(主要所藏機關)東洋文庫(V-5-A-36)

C. 涵文芬樓秘笈本系

12. 涵文芬樓秘笈本

涵文芬樓秘笈(全54集72册80卷)第九集第七十二册

民國、孫毓修等輯、上海商務印書館影印

民國九年(1920)初版 民國十五年(1926)再版

(主要所藏機關)東洋文庫(V-5-C-27)、慶應義塾圖書館(50-21/72-1)、
同館(1005-801/72-1)、京都大学人文科学研究所

3. 内容について

『南翁夢録』は、胡濙の「序」、黎澄の「自序」、「篇目」、「本文」三十一篇および宋彰の「後序」からなる。

そのうちの本文三十一篇は、以下のように三つに分類できる。

A. 陳朝帝室に関するもの = 七篇

1. 藝王始末、2. 竹林示寂、3. 祖靈定命、4. 徳必有位、5. 婦徳貞明、6. 聞喪氣絶、7. 文貞鯁直

B. 僧道に関するもの = 十篇

8. 醫善用心、9. 勇力神異、10. 夫婦死節、11. 僧道神通、12. 奏章明驗、13. 壓浪真人、14. 明空神異、15. 入夢療病、16. 尼師徳行、17. 感激徒行

C. 詩文に関するもの = 十四篇

18. 疊字詩格、19. 詩意清新、20. 忠直善終、21. 詩風忠諫、22. 詩用前人警句、23. 詩言自負、24. 命通詩兆、25. 詩志功名、26. 小詩麗句、27. 詩酒驚人、28. 詩兆餘慶、29. 詩稱相職、30. 詩歎致君、31. 貴客相歡

なお、上記の三系統の内容は、文末に附した「南翁夢録四種目録対照表」に明らかのように、涵文芬樓秘笈本系は、胡濙の序、篇目、宋彰の後序を有するものの、「命通詩兆」、「詩志功名」、「小詩麗句」の三篇を欠き、紀錄彙編本系は、胡濙の序、篇目、宋彰の後序を欠くものの、全篇三十一すべてを有するといった多少の出入りを除いては、内容はほぼ同じである。また、説郭續本系は、省略部分が多い上に、字も不鮮明な箇所が多く、前二者に比べてテキストとしての価値は劣る。

4. 『南翁夢録』の著者等について

『南翁夢録』の著者である黎澄 Lê Trùng (1374 ~ 1446) については(8)『大越史記本紀全書』や『南翁夢録』の胡濙の序および同書の宋彰の後序によると、中国・五代十国時代の演州刺史の胡興逸(浙江出身)の後裔と称し、ヴェトナムの『大越史記全書』等では「陳朝の帝位を篡奪した」とされている「太上皇」の胡季犛 Hồ Quý Ly (もと黎季犛 Lê Quý Ly と称す)(1336 ~ 1407)の長子で、「大虞國主」(在位1401 ~ 1407)の胡漢蒼 Hồ Hán Thương (黎蒼 Lê Thương・胡奎 Hồ Thương と称す)(? ~ 1407)の兄である清華 Thanh Hoá 出身の胡元澄 Hồ Nguyên Trùng (黎元澄 Lê Nguyên Trùng と称す)で、字を孟源、号を南翁と称していたことがわかる。

胡元澄が生まれた時代は、北方の中国ではモンゴル民族のチンギス・ハンが建国した元朝(1271 ~ 1368)が滅び、漢民族の朱元璋が建てた明朝(1368 ~ 1644)が興った頃に当たり、十三世紀末には元朝の侵攻を撃退した陳朝も衰退期にあり、中南部にあったチャンパー王国の軍がしきりに陳朝領内に侵攻し、隆慶五(1377)年正月にはチャンパーを親征した陳睿宗(在位 = 1372 ~ 1377)が戦死するという事態をまねいている。この混乱期に陳藝

宗（在位 = 1370 ~ 1372、上皇 = 1372 ~ 1394）の信用を得、陳睿宗の外戚として抬頭してきたのが胡元澄の父の胡季犛である。

胡季犛は、『大越史記本紀全書』などのヴェトナムの史書では「陳朝の帝位を篡奪した」敵役として描かれているが、上皇の陳藝宗の死（1394）後、通寶會鈔という紙幣を発行して銅銭の使用を禁止し（1396）、首都を保守派の牙城である昇龍 Thăng Long から清華に遷し（1397）、田庄 = 荘園経営の拡大と奴隷の激増に対処するために限田法（1397）および限奴法（1401）を制定して品級によって土地と奴隷の所有額を制限し、徴税のために戸籍を整備し（1401）、食料備蓄のための常平倉を設置し（1401）、諸税例を新定し（1401）、租庸調法を改定し（1402）、路・府を改めて鎮とする（1397）など地方官制および行政制度を整備し、南北班軍を制定し（1405）て軍事組織を改編し、大虞官制および大虞刑律を制定する（1401）など革新的な改革を図る一方、『國語詩義并序』を自ら著し（1396）たり、詔書を字喃 chu nôm で書くなど民族文字である字喃 chu nôm を正式に採用してその普及に努め、外交面では、チャンパーを遠征して失地を回復し（1402 ~ 1403）、明朝に使節を派遣して陳朝の絶滅を報告させ（1400）、さらに子の胡漢蒼を「安南權理國事」として明朝に使節を派遣させて封爵を求め（1403）、胡漢蒼が安南国王に封ぜられた。しかし、その意欲的な政策の実施は性急すぎて保守的な宮廷官僚らの反対にあい、さらに、胡季犛の改革の成果があがらないうちに、胡季犛が陳朝を「篡奪」したことに気付いた明朝の軍事介入をまねき（1406）、結果的には失敗に終わった。

胡元澄は、陳順宗の光泰七（1394）年冬十一月に、天下の獄訟を掌る登聞檢法院を上林寺と改称した際に、その判寺事となる。さらに、陳少帝の建新二（1399）年夏六月に、父の胡季犛が「國祖章皇」を自称し、弟の胡漢蒼が太傅となると、司徒に任ぜられた。

聖元元（1400）年二月に、胡季犛は自ら建てた胡 Hồ 朝（1400 ~ 1407）が陳朝の帝位を篡奪したのではなくて禅譲されたのであるとの大義名分を得るために、陳明宗の女である徽寧公主を皇后とし、同年末に、二人の間に生まれた次子の胡漢蒼に帝位を譲り、自身は「太上皇」と称して実権を掌握すると、胡元澄も翌聖元二（1401）年に皇帝に次ぐ左相國に任ぜられ、日本史上の平氏一門の栄華にも比すべき胡氏一族の繁栄はその頂点に達した（9）。

陳朝再興を口実とした中国・明朝の永樂帝による安南征略に際して、胡元澄は、開大二（1404）年に大江軍を節制して明軍に対して水陸に奮戦したが利あらず、開大五（1407）年夏五月、河靜 Hà Tĩnh の奇羅海口付近で父や弟らとともに明軍に捕らえられて明朝の都の金陵に送られた。

父や弟は獄に下されたが、胡元澄は「兵器進槍法」を善したので、その才能をかわれて罪を赦され、胡姓を捨てて黎澄と改名し（10）、工部營繕司清吏司主事に用いられた。

その後、胡元澄は工部郎中、工部右侍郎を歴任し、正統元（1436）年秋九月には工部左侍郎に陞せられている。

その後、正統八（1443）年には「以年七十應致仕、上疏乞留用、（正統）帝憐其交趾遺人、從之」、正統十（1445）年夏六月には工部尚書となり、専ら供内府事を任せられたが、翌正統十一（1446）年秋七月に七十三歳で歿し、北京の西、山南安河村旁に葬られる。

後世、明人が軍中に凡そ兵器を祭れば、黎澄も並せて祭ったという。

なお、その子の黎叔林（1401 ~ 1470）は工部右侍郎となり、孫の黎世榮（字は孟仁）は

中書舎人、山東塩運司同知を歴任した。

「南翁夢録序」を書いた胡濙（1375～1463）（11）は、黎澄と同じく明朝前期の政治家で、江蘇省武進縣毘陵の出身で、字は源潔、号は芝軒、諡は忠安という。建文二（1400）年の進士で、兵科給事中を授かり、永樂元（1403）年に戸科都給事中に陞せられた。その後、禮部左侍郎を歴て、宣徳元（1426）年に禮部尚書となり、天順元（1457）年には少傅を加えられたが、天順七（1463）年に八十九歳で歿した。性は「節儉寛和」で、喜怒を色に形さず、六人の皇帝（永樂帝・洪熙帝・宣徳帝・正統帝・景泰帝・天順帝）に仕え、徳望をもって知られ、「耆徳」と称せられた。なお、書室を尋愷堂と号した。

「南翁夢録後序」を書いた宋彰（12）については、黎澄と同様に交南、すなわち安南の出身で、正統七（1442）年には「亞中大夫福建等處承宣布政使司右參政」であったことが、「後序」によって判る。また、『閩書』卷之四十六 文蒞志の「皇朝布政使司」の「左布政使」の項によると、その後、中官（宦官）と親しく付き合い、ことに王振に賄賂を贈って、福建等處承宣布政使の地位を得たが、正統十三（1448）年に 茂七の乱が福建を中心として起こると、その責任をとって罷免されたことが判る。

5. あとがきにかえて

以上、『南翁夢録』について、その版本の分類、著者の黎澄の略歴およびその時代背景を中心に記したが、『南翁夢録』は、陳朝末期および、その滅亡後の胡朝の政治の中枢にあった黎澄の著作であるという点で、はじめに記したごとく、『大越史記全書』や『欽定越史通鑑綱目』などのヴェトナムの歴史書の欠落部分を補い、文献資料の限られた陳朝の同時代資料として貴重である。なお、機会を得て『南翁夢録』の訳註本を著したいと考えている。

<註>

1. 涵文芬樓秘笈本『南翁夢録』の孫毓修の「跋」による。
2. Trần Văn Giáp : Le chapitres bibliographiques de Lê-quí-Đôn et de Phan-huy-Chú. Bulletin de la Société des Études Indochinoises N.S. Tome XIII, No.1 1958の Introduction の26ページの脚注（2）
3. Phạm Trọng Điềm phiên dịch và chú thích : Lê Quý Đôn Kiến Văn Tiểu Lục. Hà Nội, Nhà Xuất Bản Sử Học, 1962の 200ページには Xem tập Nam ông Mộng lục (Lê Trung nhà Minh biên soạn) có thể biết được thời đại nhà Trần có những việc đặc sắc và việc truyền ngôi cho con. とある。
4. Trần Văn Giáp (陳文理) : Tìm Hiểu Kho Sách Hán Nôm - Nguồn Tu Liệu Văn Học, Sử Học Việt Nam (có phân tích và phê phán một số sách cần thiết) - (Thu thập chí Việt Nam) (對漢喃書庫的考察) Tập I. Hà Nội, Nhà Xuất Bản Văn Hoá, 1984 (in lần thứ hai) . のI. Lịch Sử. の1. Lịch sử nói chung. に 4. Nam Ông Mộng Lục南翁夢録 (40～43pp) の項目があるが、

涵文芬樓秘笈本のみに拠ったために、現存の『南翁夢録』は篇目に見える全31篇のうちの「命通詩兆」、「詩志功名」、「小詩麗句」の3篇を欠いている、と結論づけている。

- 5 . Buu Cầm : Nam-ông mộng-lục, một tác-phẩm của Hồ Nguyên-Trùng, con Hồ Quý-Ly. Văn-Hóa Nguyệt-San Tập XI - Quyển 5. 1962 (409 ~ 419pp)

この論文は、胡濙の序、篇目、宋彰の後序の3つを欠く記録彙編本に拠ったために、これらについて触れるところがない。

- 6 . Emile Gaspardone : Bibliographie Annamite. Bulletin de l'École Française d'Extrême-Orient Tome 1934

- 7 . 『南翁夢録』の版本の分類については、郭廷以等著『中越文化論集(二)』(「現代國民基本知識叢書 第四輯」)(臺北、中華文化出版事業委員會 民國45(1956)年5月再版)の國立中央圖書館編「附錄 中國關於越南著述目錄」(311~349ページ)の347~348ページに収載されている『南翁夢録』10種をもとにする。

- 8 . 黎澄(または胡元澄)の経歴等については、下記を参照した。

『大越史記本紀全書』卷之八、同書卷之九、『欽定越史通鑑綱目正編』卷之十一、同書卷之十二、

李文鳳撰『越嶠書』卷之十、『大明實録』宣宗實録、同書英宗實録、同書憲宗實録、『明史』、張秀明「明代交趾人在中國之貢獻」(『明史論叢 七 明代國際關係』臺北、學生書局 民國57(1968)年)

山本達郎『安南史研究』(東京、山川出版社 1950)の「第2編 明の安南征略」

- 9 . 胡季犛および胡朝については、下記の文献に詳しい。

John K. Whitmore : Vietnam, Ho Quy Ly, and the Ming (1371 ~ 1421). (TheLac-Viet Series - No.2) Yale Center for International and Area Studies, Council on Southeast Asia Studies. New Haven, Yale Southeast Asia Studies,1985 .

また、1991年12月11~12日にティン・ホア Thanh Hóaで開催された「胡季犛と儒者に関する学術討論会」(ヴェトナム歴史科学会とティン・ホア文化・通信局歴史研究・編纂班の主催)の成果については、Nguyễn Cửu Lịch SỬ ' 1992 - 5 (264) に詳しい。

- 10 . 胡元澄は、改名にあたって、陳朝の帝位の篡奪者であり、明朝にとって反逆者である胡姓を捨て、ヴェトナム人の姓として一般的な黎姓を名乗り、また、明朝の太祖の諱である朱元璋の「元」字を避けるために元をとって黎澄としたと、考えられる。

- 11 . 胡濙の経歴等については、下記を参照した。

『明史』卷之一百六十九 - 2 a、萬斯同編『明史』卷之二百一十四 - 6 b、『明史彙』卷之一百三十九 - 13 b、『皇明通紀直解』卷之五 - 1 a、『國朝獻徵録』卷之三十三 - 17 a、『國朝名世類苑』卷之一 - 23 a、同書卷之六 - 9 a、同書卷之十一 - 5 a、同書卷之十四 - 39 a、同書卷之十五 - 19 b、22 a、27 a、41 b、同書卷之十六 - 14 b、同書卷之二十八 - 6 b、同書卷之四十五 - 5 a、同書卷之四十六 - 19 b、『今獻備遺』卷之八 - 9 b、『明

名臣言行録』卷之一十九 - 1 a、『皇明名臣琬琰録』卷之二十四 - 9 a、王宗沐編『皇明名臣言行録』卷之一十三 - 4 b、沈應魁編『皇明名臣言行録』卷之二十九 - 9 a、『昭代明良録』卷之一十 - 16 a、『皇明人物考』卷之三 - 13 a、『明史竊』卷之四十二 - 12 b、『明書』卷之一百一十九 - 12 a、『國朝列卿記』卷之一十五 - 5 b、同書卷之三十二 - 21 b、同書卷之四十 - 11 b、同書卷之四十三 - 26 b、同書卷之四十五 - 4 a、同書卷之一百六十 - 6 a、『皇明詞林人物考』卷之二 - 9 a、『本朝分省人物攷』卷之二十七 - 8 a、『續藏書』卷之八 - 18 a、『明代名人伝』

12. 宋彰の経歴等については、下記を参照した。

何喬遠撰『閩書』卷之四十九 文蒞志（内閣文庫所蔵）

『南翁夢錄』四種目錄對照表

	紀錄彙編	涵文芬樓秘笈	說 郭 續 五朝小說	五朝小說大觀
胡澐序		3 p.		
黎澄自序	1 a - 1 b	2 p.		
篇目		2 p.		
1. 藝王始末	2 a - 4 b	1 a - 4 a	1 a - 4 a	1 a - 2 a
2. 竹林示寂	4 b - 5 a	4 a - 4 b	4 a - 4 b	2 a
3. 祖靈定命	5 a - 5 b	4 b - 5 a	4 b	2 a
4. 德必有位	5 b - 6 a	5 a - 5 b	4 b - 5 a	2 a - 2 b
5. 婦德貞明	6 a - 6 b	5 b - 6 a	5 a - 6 a	2 b
6. 聞喪氣絕	6 b	6 a	6 a	2 b
7. 文貞鯁直	6 b - 7 b	6 a - 7 a	6 a - 7 a	3 a
8. 醫善用心	7 b - 8 a	7 a - 8 a		
9. 勇力神異	8 a - 9 a	8 a - 8 b	7 a - 7 b	3 a - 3 b
10. 夫婦死節	9 a - 9 b	9 a - 9 b		
11. 僧道神通	9 b	9 b		
12. 奏章明驗	9 b - 10 a	10 a	7 b - 8 a	3 b
13. 壓浪真人	10 a - 10 b	10 b - 11 a		
14. 明空神異	10 b - 11 b	11 a - 12 a		
15. 入夢療病	11 b - 12 a	12 a - 13 a		
16. 尼師德行	12 b - 13 a	13 a - 13 b		
17. 感激徒行	13 a - 13 b	13 b - 14 a		
18. 疊字詩格	13 b - 14 a	14 a - 14 b		
19. 詩意清新	14 a - 14 b	14 b - 15 b		
20. 忠直善終	14 b - 15 a	15 b - 16 b		
21. 詩風忠諫	15 b - 16 a	16 b - 17 a		
22. 詩用前人警句	16 a	17 a - 17 b		
23. 詩言自負	16 a - 16 b	17 b - 18 a		
24. 命通詩兆	16 b - 17 a			
25. 詩志功名	17 a			
26. 小詩麗句	17 a - 17 b			
27. 詩酒驚人	17 b - 18 a	18 a		
28. 詩兆餘慶	18 a - 18 b	18 b - 19 a		
29. 詩稱相職	18 b	19 a		
30. 詩歎致君	18 b - 19 a	19 a - 19 b		
31. 貴客相歡	19 a	19 b - 20 a		
宋彰後序		3 p.		